

カウンセラーの思考プロセスとしてのクリティカルシンキング

Critical Thinking as a Counselor's Thinking Process

浜本 佳奈

Kana Hamamoto

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻 修士課程

キーワード：カウンセリング，クリティカルシンキング

Key words : Counseling, Critical thinking

1. 研究目的

当初は、効果的なカウンセリングを行うために求められる、カウンセラーの思考プロセスについて、クリティカルシンキングという視点から説明することを目的としていたが、臨床心理学的なカウンセリング中のカウンセラーの態度を明らかにしようとする中で、対象を絞る必要があることに加え、効果的な態度を含んだ概念としてコンピテンシーを扱うのが妥当であると考えたため、対象を絞り、スクールカウンセラーに変更して研究を行った。

1-1 スクールカウンセラーの歴史と課題

近年、いじめの深刻化や不登校児童生徒の増加など、児童・生徒の心の在り様と関わる様々な問題が生じている。そのため、児童・生徒や保護者の抱える悩みを受け止め、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るための方法の一つとして、文部科学省は、平成7(1995)年度から、「心の専門家」として臨床心理士などをスクールカウンセラー(以下、SC)として全国に配置している(文部科学省, 2007)。令和3年度には全国で、SCを配置(定期・不定期を含む)している小学校・中学校・高校が9割を超えており(学校保健統計調査, 2021)、今ではSCは広く知られ、学校に勤務する専門職として認知されるに至っている。

SCの需要が高まり、配置も広がっていく中で、SCに関する課題として、SCの活用の仕方が、学校の教員や校内組織のあり方、校長を始めとした教職員の意識、学校及び都道府県等によって大きな差があること、SCの資質や経験に違いがみられることなどが挙げられている(文部科学省, 2007)。

また、臨床家の資質向上のための訓練制度を整えることについて、岩壁ら(2018)は、「現場の臨

床家に求められているコンピテンシーやニーズを調査して課題を明確にすること」の重要性を指摘しており、SCの活用や資質の向上の検討に際しては、求められているコンピテンシーとニーズを明らかにすることが重要である。

1-2 コンピテンシーについて

コンピテンシーの定義は多数存在しているが、今回はBoyatzis(1982)の「ある職務において、効果的かつ(もしくは)優れた業績という結果を生む人の根源的な特性」とする。人の根源的特徴とは、「動機、特性、スキル、自己概念もしくは社会的役割といった側面、もしくは人が使用する知識の総体」である。また、コンピテンシーは、①特性や動機といった自分では意識しないレベルのもの、②自己イメージや社会的役割といった意識するレベルのもの、そして③スキルといった行動に表れる3つのレベルに分けられる(Boyatzis, 1982)としており、このようなコンピテンシーのレベル分けにより、コンピテンシーが目に見えるものだけでなく、動機といった知覚しにくいものも含むことを示している(加藤, 2011)。

1-3 SCのコンピテンシーについて

SCに求められている資格の一つである公認心理師のコンピテンシーについて、公認心理師協会(2023)は、心理的アセスメントや心理支援等を総合的に行う力、要支援者の自己決定を徹底して尊重する専門性、実践の結果を踏まえて逐次対応を修正していく反省的实践、関係性の重視、科学的知識と方法、文化的多様性や個別性の尊重、学際的な多職種協働の重視を挙げている。

一方で、公認心理師のコンピテンシーは、多様な分野で活躍する公認心理師のコンピテンシーを統括したものであるため、分野ごと、職種ごとの

公認心理師のコンピテンシーについてはそれぞれ検討する必要がある。

－4 SC へのニーズについて

SC へのニーズを検討する上で、SC と協働する他職種の意見は重要である。特に、児童・生徒とのかかわりが多い教員が、どのように SC を理解し、何を SC に求めているのかということについて知ることは、SC のニーズの理解につながる。

先行研究では、SC に対する教師からのニーズについて「カウンセリングなど生徒・保護者に対する直接援助」、「コンサルテーションなど教師に対する間接援助」、「教師・生徒・保護者の間のコーディネートを行う橋渡し役」のニーズがあること（荒木・中澤，2007）や「カウンセリング」、「教師との連携」、「コンサルテーション」、「発達障害への対応」が、特に SC に学校側が求めている役割であること（近藤，2023）などが示されている。

また、荒木ら（2007）の研究によれば、学校種によっても SC の仕事に対するニーズは異なっていることが示されており、SC へのニーズを調査する上では、学校種ごとの検討も必要である。

そして、小溝・松尾・工藤（2020）によれば、SC が設置から 20 年以上が経過し、導入時に比べ教員から SC に対する職務や専門性に対する理解は徐々に深まり、心理職としての専門性を学校現場で生かすことが期待されていることが示唆された。一方、時間の経過とともに期待される知識や活動も少しずつ変化し、時代の変化に対応することも SC には求められているともしており、SC は時代によって変化するニーズを捉えることが必要であると考えられる。

－5 本研究の目的

本研究は、中学校の SC（臨床心理士・公認心理師）のコンピテンシーを、SC の視点（SC が必要と考えるコンピテンシー）と、教職員の視点（現場のニーズ）の比較を交え、明らかにすることで、SC のコンピテンシーモデルを検討することを目的とする。

2. 研究実施内容

本研究は令和 5 年度の大妻女子大学生命科学研究の倫理審査委員会の承認を得ている（承認番号 05-043）。

－1 調査手続きと調査対象者

縁故法により中学校の SC、および東京都・神奈

川県の公立中学校の教員それぞれ 3～5 名程度に調査依頼をし、半構造化面接法によるインタビュー調査を実施予定である。

－2 インタビュー内容

SC のコンピテンシーを明らかにするために、SC・教員それぞれに、「SC として働くにあたって、どのような知識・技能・態度が必要だと思いますか？」といった質問によって、半構造的にインタビューを行う予定である。

－3 分析方法

インタビューによって得られたデータは、SC のコンピテンシーモデルについて詳細に検討するために、人と人とのかかわりあいで成り立つ人間の実践を理論化する質的研究法の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いる予定である。

3. まとめと今後の課題

今年度は文献調査によって、SC の歴史や課題やコンピテンシー、および分析方法について理解を深めた。今後は、調査対象者を募り決定し、調査を実施、分析予定である。

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (DB2335)「カウンセラーの思考プロセスとしてのクリティカルシンキング」を受けたものです。

主要参考文献

- 荒木 史代・中澤 潤 (2007). スクールカウンセラーに対する教師のニーズ 千葉大学教育学部研究紀要, 55, 87-95.
- 加藤 恭子(2011). 日米におけるコンピテンシー概念の生成と混乱. 産業経営プロジェクト報告書 = Survey reports on business administration trends / 日本大学経済学部産業経営研究所, 34(3), 1-23.
- 小溝 遥香・松尾 直博・工藤 浩二 (2020). スクールカウンセラーと教員の連携・協働に関する研究動向と展望—役割から見るニーズや課題— 東京学芸大学教育実践研究, 16, 171-178.
- 厚生労働省 (2021). 令和 2 年度障害者総合福祉推進事業 公認心理師の活動状況に関する調査 <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/00079>

8636.pdf (2024年2月14日)

文部科学省 (2007). 教育相談等に関する調査研究
協力者会議 児童生徒の教育相談の充実につ
いて—生き生きとした子どもを育てる相談体
制づくり— (報告) 2 スクールカウンセラ
ーについて

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/066/gaiyou/attach/1369846.htm

学校保健統計調査 (2022). 令和3年度 都道府県
表

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1>

&layout=datalist&toukei=00400002&tstat=0000
01011648&cycle=0&tclass1=000001172048&tcl
ass2=000001172050&stat_infid=000032258893
&tclass3val=0 (2024年2月14日)

岩壁 茂・奥村 茉莉子・金沢 吉展・野村 智子
(2018). 心理職の『実践的総合力』の習得に
向けて—資格取得後の高度対人援助専門職育
成プログラムの開発. 公益財団法人明治安田
こころの健康財団 (編). 50周年記念研究助
成論文集.